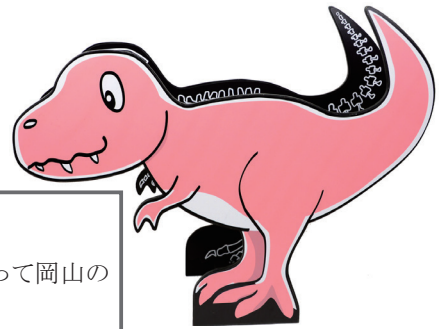


企画展「恐竜の玉手箱」

2014年12月13日(土)～2015年3月1日(日)



観覧料は無料

常設展観覧料は下記

20歳以上65歳未満	520円
15歳以上20歳未満	
および学生	300円
高校生・65歳以上	100円
中学生以下	無料

目に入るアナは
ここで良いの？
正解は展示で！

こんにちは。ボクは、企画展のマスコット、カズです。

林原自然科学博物館生まれのキャラクターです。ヒロカズと呼ばれ、長きにわたって岡山のエドゥケーターのみなさんと展示や教育の活動をすすめてきました。

そして訳あって、2014年春、教育用の恐竜標本たちと一緒に、こちらの生命の星・地球博物館に引っ越してきました。

神奈川にやってきて、半年。なぜだか、こちらの学芸員は僕のことをカズと呼び、収蔵庫での居場所づくりをすすめてくれています。2014年の暮れには、岡山から来たボクの仲間たちを企画展「恐竜の玉手箱」でおひろめしてくれるそうです。なんでも、僕らを「カセキット」として学校や公民館などで展示教育活動に活用してもらうための最初の「仕掛け」なのだから。

企画展の構成は、恐竜の「しっぽ」、「あし」、「どうたい」、「あたま」のコーナーと、恐竜の姿を描いた実寸大の復元画のコーナーからなるそうです。また、恐竜の骨格と比べて実感するために、ヒトの骨格模型も登場します。恐竜のそれぞれの部位を、ヒトの骨格に置きかえてみることで、位置や役割がわかりやすくなると思うわけです。

最も有名な恐竜ティラノサウルス。その頭骨にはたくさんの穴があいています。頭骨をみて目の位置をすぐわかる人は案外少ないようです。それならばと、目の位置を当てるアクティビティも準備しています。目のことだけに、その工夫には要注目ですよ！僕は、会場での案内役に任命されるそうです。みなさんに化石を楽しんでもらえるようにガンバリます！

それでは、企画展でお目にかかりましょう！

ライブラリー通信

司書のお仕事 修理編

こばやしみずほ
小林瑞穂 (司書)

ミュージアムライブラリーの図書はたくさんの方が利用します。何度も読まれるうちに、表紙やページが破れたり、ページがバラバラに外れたりする図書もあり、そんな図書を修理するのも司書の仕事のひとつです。

図書の修理方法は破損具合によって様々です。簡単なものを紹介すると、紙が破けてしまっている場合は破れ目をきれいに合わせ、補修用のテープで貼りあわせませす。ページが一枚外れてしまったら、のり付けしたページを押し込むようにして付け直します。ちなみに補修にセロハンテープは使いません。セロハンテープは劣化しやすく、黄色く変色したり、粘着剤が溶け出したりと紙を傷める原因になります。一番紙にやさしいのはのりと薄い和紙を使って貼りあわせる方法だったりします。

もっとひどいものは本体が背表紙から外れていたり、ページがバラバラになっていたります。そのような図書は修理に丸一日かかってしまうこともあります。元の図書のつくりによって多少変わりますが、おおまかに手順を紹介すると、表紙を剥がして一度きれいに図書を解体し、バラバラになったページや破損した部分の修理をした後に、最初に剥がした表紙を付け直すといった具合になります。

壊れた図書はすぐに修理すれば簡単な補修で済むこともありますが、放っておくと破れた部分が広がったり、外れたページがなくなったりと取り返しのつかないことになります。特に利用頻度の高い子どもの本や、大きな図書、重たい図書などが壊れやすい傾向にあります。もしライブラリーで壊れている本を見つけた時は司書までお知らせください。



アロサウルスの頭骨

当博物館の催し物は
ホームページをご覧ください。

問合せ先

神奈川県立生命の星・地球博物館

企画情報部 企画普及課

所在地 〒250-0031 小田原市入生田 499

電話 0465-21-1515

ホームページ <http://nh.kanagawa-museum.jp/>

生命の星

